

複数施設研究用

研究課題名『日本腎臓病総合レジストリー』に関する情報公開

1. 研究の対象

- 帝京大学ちば総合医療センターと共同研究機関で2007年1月23日より2032年3月31日（終了期間は延期される）までの間に腎生検を受けた全ての患者、腎生検を受けられなくても腎臓病と診断された患者さんが対象です。
- 共同研究機関は、全国の大学病院、国公立病院、基幹病院、その他の施設などで、日本腎臓学会のホームページに掲載され確認することができます。

さらに、下記の方も研究の対象とさせていただきます。

- 2007年から開始された「わが国の腎臓病患者における腎生検データベース構築」の研究に参加し、日本腎生検レジストリー[Japan Renal Biopsy Registry (J-RBR)]に登録されている方
- 2008年から開始された「わが国の腎臓病患者における腎生検データベース構築ならびに腎臓病総合データベース構築に関する研究」に参加され、J-RBR、もしくは日本腎臓病総合レジストリー[Japan Kidney Disease Registry(J-KDR)]に登録されている方

2. 研究目的・方法・研究期間

1) 研究の背景および目的

腎臓病が進行して透析療法を受けておられる患者さまの数は年々増加しています。腎臓病を早期に診断し、適切な治療を行うことは大変重要です。腎生検による検査は腎臓病の診療において、病気の種類の確定や治療方針の決定、予後の判定のために40年近く前から行われてきました。しかしながら、わが国における腎生検の全国調査は過去に行われたことがないため、例えば同じ病気の方が全国に何人いらっしゃるか、正確な情報がわからないのが現状です。この研究により、あなたの腎生検結果や、通常行われている血液、尿検査の結果を全国調査の一環としてお教え頂きたいと思います。腎臓病の方で、腎生検を受けなくても病歴や一般の血液・尿検査だけで診断される方があり、その場合には腎生検以外の結果をお教え頂きたいと思います。それによって、腎臓病の病気の種類や起こり方を調査し、将来的には同じ腎臓病の方へのより良い治療の開発や、病気の予防や管理の仕方の向上につながる可能性があります。

2) 研究方法

この研究の実施には、通常の診療で行う腎生検の病理組織診断の結果、尿検査や血液検査の結果を使用させていただきます。具体的には、診療上得られたカルテ情報から個人情報非識別化して、検査結果や組織画像の電子化情報などを大学病院医療情報ネットワークセンター（UMIN）インターネット医学研究データセンターINCICEのクラウドに登録していきます。全国より登録されたデータの集計を行います。腎生検を受けておられない方については、腎生検以外のデータを登録していきます。この研究と将来透析に導入されるかどうかなどの関連を検討して腎機能などの予後（病気のたどる経過）に関する調査を行います。

この研究のために、特別に組織を頂いたり、追加の尿検査や血液検査を行うことはありません。

集計されたデータは学会発表、学術論文や日本腎臓学会のホームページなどでまとめて公表されることがありますが、個人個人の情報については公表されることはありません。

研究期間；実施承認日～2033年3月31日ですが、日本腎臓学会が継続する限り『日本腎臓病総合レジストリー』は延長される予定です。

### 3. 研究に用いる情報の種類（試料は収集しません）

この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきます。あなたの個人情報には削除し、非識別化して、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- 年齢、性別、臨床診断名、腎生検実施日、腎生検回数
- 身長、体重、血圧、降圧薬内服の有無、糖尿病診断の有無
- 治療の内容
- 血液、尿検査
- 腎生検所見、腎生検の組織画像、など

### 4. 外部への試料・情報の提供

腎臓病発症の実態を明らかにする研究や、腎臓病診療のガイドライン策定の参考となる基礎データに用いる為、あなたの情報を登録したデータベースの情報を基盤として、日本腎臓学会の委員会で予め承認された疾患群を対象とした個別の疫学研究を行うことがあります\*。この場合に、あなたの登録情報は、日本腎臓学会の腎臓病総合レジストリー参加施設に提供される可能性があります。腎臓病総合レジストリー参加施設は、日本腎臓学会のホームページに掲載されています。

なお、海外の学会や学術団体との共同研究にデータが利用される可能性があります。その場合は、その2次研究を行う研究責任者（当研究の共同研究者）が、相手のデータベース名、研究内容、個人情報の保護体制等を明らかにし、使用用途・範囲を限定して改めて使用に関して倫理審査を受け行います。

この研究で収集した情報は、この研究が続くかぎり大学病院医療情報ネットワーク研究センター（UMIN）のサーバで保存させていただきます。保管期限は定めません。

（日本腎臓学会が主体となって永続的に保管される予定です。ただし、レジストリーの運用の終了が決定された場合は、研究の終了後、その時の研究代表施設で10年間保管後、情報は電磁的記録は消去用ソフトにより消去します。）保存した情報を用いて行う2次研究の内容は、海外の学会や学術団体との共同研究も含めて、日本腎臓学会のホームページに掲載してお知らせします。

データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。

### 5. 研究組織

<https://jsn.or.jp/member/registry/>

腎臓病総合レジストリー参加施設の最新のリストはこちらからダウンロードしてください。

### 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

一般社団法人 日本腎臓学会 腎臓病レジストリー委員会  
〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目28番8号  
電話：03-5842-4131 FAX：03-5802-5570 e-mail：office@jsn.or.jp

研究代表者

名古屋大学大学院医学系研究科 腎臓内科学・教授・丸山彰一  
〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65  
TEL：(052)744-2192 FAX：(052)744-2209

e-mail : [jkdr@med.nagoya-u.ac.jp](mailto:jkdr@med.nagoya-u.ac.jp)

本学の研究責任者（共同研究者）

帝京大学ちば総合医療センター 第三内科学講座（腎臓内科）教授 伊藤孝史

〒299-0111 千葉県市原市姉崎 3426-3

TEL : (0436)62-1211 FAX : (0436)62-7340

苦情の受付先

帝京大学ちば総合医療センター 第三内科学講座（腎臓内科）教授 伊藤孝史

TEL : (0436)62-1211 FAX : (0436)62-7340

\*現在行われている「あなたの情報を登録したデータベースの情報を基盤として、日本腎臓学会の委員会で予め承認された疾患群を対象とした個別の疫学研究」のリストは以下の通り

1. J-RBR を利用したわが国の成人ループス腎炎の予後に関する観察研究（コホート研究）：追加解析
2. 日本腎生検レジストリーを利用したわが国における尿細管間質性腎炎の実態について
3. 感染関連腎症の臨床像と腎病理所見の経年的変化についての検討
4. 腎硬化症における輸入細動脈肥厚と臨床所見・降圧薬の関連に関する研究
5. 日本腎生検レジストリー(J-RBR)を利用した Organized deposit を伴う腎症の実態調査

2023年9月11日作成 Ver.1

## 研究課題名「J-RBR を利用したわが国の成人ループス腎炎の予後に関する観察研究(コホート研究):追加解析」に関する情報公開

### 1. 研究の対象

本件の対象者は、2007年1月1日から2012年12月31日に腎生検を受けループス腎炎と診断され、日本腎生検レジストリー(J-RBR)に登録された方です。

### 2. 研究目的・方法・研究期間

研究目的:

ループス腎炎にはさまざまな組織障害のタイプがあり、各タイプによって腎炎の進行の仕方や治療薬への反応が異なることが海外の研究で明らかになってきました。しかし、日本人のデータはまだ十分ではありません。

そこで私たちは「J-RBR を利用したわが国の成人ループス腎炎の予後に関する観察研究」を行いました。この研究では日本腎生検レジストリーに登録されているループス腎炎の患者さんを対象に、腎生検時の臨床所見や組織所見と治療後の腎機能の状態や死亡・合併症の有無などの関係を調査し、学会や論文等に解析結果を発表しております。今回は前回の研究で収集した情報を利用し、より詳細な解析を行うことを目的とします。

研究方法:

前回の研究で収集し群馬大学腎臓・リウマチ内科で電子データとして保管されている患者さんの情報を利用して、追加解析を行います。

研究期間:実施承認日 ～ (西暦)2027年12月31日

データ利用開始日: (西暦) 2023年12月1日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

前回の研究では、各施設の診療録より、年齢、性別、身体所見、検査結果(血液検査、臨床検査画像、病理組織検査結果)、治療内容などの情報を抽出しました。これらの情報は、匿名化(どの研究対象者の試料であるか直ちに判別できないよう、加工あるいは管理されたもの)され、各施設の研究担当者より大学病院医療情報ネットワークセンター(UMIN)の運営する症例登録システムを通じて群馬大学腎臓・リウマチ内科研究室に提供されました。今回はこれらの既に提供され、群馬大学に保管された情報を使用します。

#### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲

内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

職名: 群馬大学医学部附属病院腎臓・リウマチ内科病院講師

氏名: 池内秀和

連絡先: 〒371-8511

群馬県前橋市昭和町 3-39-

22 Tel: 027-220-8166

研究責任者:

職名: 群馬大学医学部附属病院腎臓・リウマチ内科病院教授

氏名: 廣村桂樹

連絡先: 〒371-8511

群馬県前橋市昭和町 3-39-

22 Tel: 027-220-8166

臨床研究に関する情報公開(一般向け)  
「日本腎生検レジストリーを利用したわが国における尿細管間質性腎炎の実態について」へご協力をお願い

—2018年1月1日～2022年12月31日までに  
当科において腎生検を受けられた方へ—

研究機関名:三重大学医学部附属病院

研究責任者:腎臓内科 村田 智博

研究分担者:血液浄化療法部 片山 鑑、血液浄化療法部 鈴木 康夫、腎臓内科 小田 圭子

個人情報管理者:検査部 杉本 和史

#### 1. 研究の概要

1) 研究の意義:近年、免疫チェックポイント阻害薬による尿細管間質性腎炎の報告も多く、尿細管間質性腎炎と診断される症例は増加してくると予想されます。また、近年 IgM 陽性形質細胞を伴った尿細管間質性腎炎の存在も報告され、新たな疾患概念が確立されています。本研究で、本邦における尿細管間質性腎炎の症例を蓄積し、どのような特徴があるかをまとめていくことで、臨床へのフィードバックが可能と考えます。

2) 研究の目的:2018年から2022年の日本腎生検レジストリー(Japan Renal Biopsy Registry、以下 JRBR)において、尿細管間質性腎炎の年齢別分布や、病因別分布等を明らかにし、尿細管間質性腎炎の実態を把握します。

#### 2. 研究の方法

1) 研究対象者:2018年1月1日～2022年12月31日までに当科において腎生検を受けられた患者様

2) 研究期間:許可日より2028年3月31日まで

3) 研究方法:2018年から2022年に日本腎生検レジストリーに登録された腎生検において、尿細管間質性腎炎の症例を抽出し、年齢、腎機能、尿所見、臨床情報からどのような分布をしているかを分析します。また、病因別に症例を分け、病因毎のデータについても分析を行います。

4) 使用する試料の項目:なし

5) 使用する情報の項目:

登録時の検査・評価項目

主病名が尿細管間質性腎症の中の尿細管間質性腎炎

主病名が膠原病関連腎症の中のシェーグレン症候群の尿細管間質性腎炎

の中から以下項目

【臨床診断】腎組織種類、尿異常、急性腎炎症候群、慢性腎炎症候群、急速進行性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害 (AKI)、慢性腎機能障害、その他

【腎生検】生検回数

【最終診断】主病名、主病名\_大分類、主病名\_小分類、副病名、副病名\_大分類、副病名\_小分類、備考

【臨床情報】年齢、性別、身長(cm)、体重(kg)、BMI、免疫抑制治療(初発)、免疫抑制治療(再発)、尿蛋白定性、尿蛋白定量、尿蛋白定量(g/日)層別化、尿蛋白/クレアチニン比、尿蛋白/クレアチニン比\_層別化、CGA 分類 Astages、尿潜血定性、赤血球/HPF、血清クレアチニン(mg/dl)、eGFR (18歳以上)、eGFR(小児)、eGFR(まとめ)、CGA 分類、G ステージ、CGA ヒートマップ色、収縮期血圧、拡張期血圧、備考、自由記載

6) 利用又は提供を開始する予定日:許可日

7) 情報の保存:

研究対象者の個人情報(個人情報を特定できないように加工を行い、その個人情報を復元できる情報(いわゆる対応表))は個人情報管理者が保管します。個人情報を特定できないように加工した情報は電子情報として保存します。この研究で得られたデータは適切に保管し、研究終了後5年または研究発表後5年のいずれか遅い日まで保管した後、個人情報が特定できないまま廃棄します。

また、保管される既存試料・情報を新たな研究に利用する場合は、新たな研究の研究計画書等を倫理審査委員会に付議し、承認されてから利用します。また、その際は情報公開文書を作成し、当院のホームページ「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開」(<https://mie.bvits.com/rinri/publish.aspx>)で公開したうえで、研究対象者が研究参加を拒否する機会を保障します。

また、近年、データの正確性を見るために、論文の出版社からデータの提出を求められることがあります。また、全世界の研究者が、論文のデータにアクセスできるようにし、研究を行うことがあります(データシェアリングといいます。)。両者とも、個人を特定できなくした情報しか提供しませんので、これにより個人を特定されることはありません。

8) 情報の保護:

研究に関わる関係者は、研究対象者の個人情報保護について、適用される法令、条例を遵守します。また、関係者は、研究対象者の個人情報およびプライバシー保護に最大限の努力を払い、本研究を行う上で知り得た個人情報を漏らすことはありません。試料・情報の管理の責任者は研究責任者です。

9) 倫理審査：

三重大学医学部附属病院内または医学部・医学系研究科内で行われる全ての臨床研究は、研究に参加される方の人権や安全性の保護および科学性について問題がないかを三重大学医学部附属病院 医学系研究倫理審査委員会にて審査され、その意見をもとに病院長または研究科長が許可したもののみ実施されます。本研究は、三重大学医学部附属病院 医学系研究倫理審査委員会において審査を受け、病院長または研究科長の許可を得ております。

10) 研究資金源及び利益相反：

本研究では奨学寄附金(企業以外)を使用します。本研究の結果および結果の解釈に影響を及ぼすような利益相反はありません。また、本研究を行うことによって研究に参加いただいた方々の権利・利益を損ねることはありません。

11) 研究計画書および個人情報の開示：

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等(父母、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人)を交えてお知らせすることもできます。内容についてお分かりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。この研究はあなたのデータを個人情報とわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

12) 研究への使用を希望されない場合：

あなたの試料・情報が 研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様の不利益が生じることはありません。あなたが研究を拒否された場合、これまで取得したデータは全て削除します。ただし、解析中もしくは論文執筆中のデータ、また、既に学会や論文で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。拒否される場合は、お早めにご連絡をお願い致します。

13) 代表研究機関および共同研究機関



2022年12月1日 作成  
2024年4月1日 作成

Ver.1  
Ver.2

代表研究機関名・研究代表者:三重大学医学部附属病院 腎臓内科 村田 智博

共同研究機関名・研究責任者:

筑波大学 医学医療系臨床医学域腎臓内科学 臼井丈一

国際医療福祉大学熱海病院 病理診断科 金網友木子

日本医科大学 病理学(解析人体病理学) 清水章

名古屋大学 大学院医学系研究科腎臓内科 丸山彰一

川崎医科大学 総合医療センター内科 杉山斉

名古屋大学 大学院医学系研究科腎臓内科 尾関貴哉

<問い合わせ・連絡先>

担当者:三重大学医学部附属病院 腎臓内科 小田 圭子

電話:059-232-1111(平日:9時30分~17時00分) ファックス:059-231-5074

2023年11月19日 1.2版

## 感染関連腎症の臨床像と腎病理所見の経年的変化につ

### いての検討

京都府立医科大学腎臓内科では、日本腎臓学会の「わが国の腎臓病患者における腎生検データベース構築ならびに腎臓病総合データベース構築に関する研究」に参加しております。日本腎臓学会から提供を受けた登録データを使って、下記の臨床研究をあらたに実施しています。

実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

#### 研究の目的

感染関連腎症は従来、若年者で溶連菌感染後に生じる急性糸球体腎炎が主流でしたが、衛生環境の向上や抗生物質の発展などに伴い減少傾向にあります。一方、高齢化や糖尿病の増加により、溶連菌以外の感染に関連した腎炎が増加しています。

わが国における感染関連腎症の頻度や臨床像について調査します。

#### 研究の方法

##### ・対象となる方について

2007年から2022年までの間に「わが国の腎臓病患者における腎生検データベース構築ならびに総合データベース構築に関する研究」に参加された方を研究の対象とします。なお、参加施設は日本腎臓学会のホームページに掲載されています。

##### ・研究期間：医学倫理審査委員会承認後から2028年12月31日

##### ・方法

上記データベースより以下の情報を取得し、感染関連腎症の割合や臨床像について調べます。

##### ・研究に用いる試料・情報について

情報：年齢、性別、臨床診断、尿蛋白、尿潜血、血清クレアチニン 等

利用開始予定日：●年●月●日（承認後に具体的な日付を記載）

・個人情報の取り扱いについて

参加施設でデータベースに登録する際は、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し研究用の番号を付けて取り扱います。患者さんと研究用の番号を結びつける対応表は厳重に管理され、電子情報化されたものは、他の一切のコンピュータと切り離されパスワードで管理されたコンピュータに保存されます。データ管理については、日本腎臓学会腎疾患レジストリー腎病理診断標準化委員会により厳正に行われています。

本研究には日本腎臓学会から「施設名を消去した個別データ」が提供されるため、そのデータから患者さんの個人名を特定することはできません。また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、患者さんが特定できる情報を使用することはありません。

なお、この研究で得られた情報は研究責任者（京都府立医科大学 腎臓内科 玉垣 圭一）の責任の下、厳重な管理を行い、患者さんの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

## 研究組織

研究責任者： 京都府立医科大学 腎臓内科 玉垣 圭一

研究担当者： 京都府立医科大学 腎臓内科 小牧 和美

共同研究機関： 日本腎臓学会腎臓病レジストリー委員会 委員長 丸山 彰一

## お問い合わせ先

患者さんのご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2028年12月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

京都府立医科大学

職・氏名 腎臓内科・玉垣 圭一

電話：075-251-5511（平日9:00～17:00）

### 新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	腎硬化症における輸入細動脈肥厚と臨床所見・降圧薬の関連に関する研究
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
	「わが国の腎臓病患者における腎生検データベース構築ならびに総合データベース構築に関する研究」に登録されている症例を対象とします。
③概要	既に構築されている腎臓病総合レジストリー(J-KDR/J-RBR)(わが国の腎臓病患者における腎生検データベースならびに総合データベース)には、匿名化された患者さんの臨床データが含まれています。この研究では、登録されているデータを使用して、腎硬化症の病理所見と臨床所見の関連を明らかにします。
④申請番号	
⑤研究の目的・意義	慢性腎臓病は我が国の成人の8人に1人が該当し、大きな問題となっています。慢性腎臓病の原因として腎硬化症が増えています。腎硬化症の発症・進展機序の解明や、腎機能低下の進行を抑制する治療法の確立が求められています。この研究により、腎硬化症の原因・薬の影響などが明らかになる可能性があります。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から2025年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法(他の機関へ提供される場合はその方法を含む。)	腎臓病総合レジストリー(J-KDR/J-RBR)に登録されているデータを利用し、病理学的・統計学的に解析します。
⑧利用または提供する情報の項目	腎臓病総合レジストリー(J-KDR/J-RBR)に登録された情報。年齢、性別などの患者情報、薬剤処方歴、血清クレアチニン、尿蛋白、腎病理所見、等。
⑨利用する者の範囲	新潟大学 腎・膠原病内科
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学 腎・膠原病内科 成田 一衛
⑪お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：新潟大学 腎・膠原病内科 氏名：渡辺 博文 Tel：025-227-2200

2022年12月1日 作成 Ver.1  
2024年4月1日 作成 Ver.2

	E-mail : <a href="mailto:watanabeh@med.niigata-u.ac.jp">watanabeh@med.niigata-u.ac.jp</a>
--	---

## 臨床研究に関するお知らせ

宮崎大学医学部附属病院腎臓内科では、下記の臨床研究を実施しています。皆様には本研究の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 研究課題名：日本腎生検レジストリー (J-RBR) を利用した Organized deposit を伴う腎症の実態調査

#### 1. 研究の概要

2007年より腎生検を受けた患者さんについて「わが国の腎臓病患者における腎生検データベース構築」の研究題目で Japan Renal Biopsy Registry (J-RBR) の登録が行われています。腎生検実施施設より、症例毎の病理組織診断、血液・尿検査所見などが登録され、その情報を基に、生検実施症例数、病理組織診断分類、臨床所見に関する統計調査が毎年行われているものです。この J-RBR の病理診断カテゴリのうち、Organized deposit を伴う腎症としてイムノタクトイド系球体症、細線維性系球体腎炎、フィブロネクチン腎症、コラーゲン線維性腎症が登録されており、現時点ではこれらの疾患は腎生検の実施によってのみ診断し得る腎症となっております。この病気が占める割合は約0.2%と非常に稀で、本邦での実態は依然として不明です。イムノタクトイド系球体症、細線維性系球体腎炎においては海外の報告がありますが、人種差なども含め本邦における調査が必要と考え、本研究を計画しました。

#### 【実施責任者】

宮崎大学医学部内科学講座循環器・腎臓内科学分野 菊池 正雄

#### 2. 目的

腎生検データベースである J-RBR のデータを用いて、イムノタクトイド系球体症、細線維性系球体腎炎、フィブロネクチン腎症、コラーゲン線維性腎症についての疫学を明らかにします。

なお、この研究は、上記疾患に関連する新しい知識を得ることを目的とします。

#### 3. 研究実施予定期間

この研究は、研究機関の長の許可後から2026年3月まで行われます。

#### 4. 対象者

J-RBRに2007年4月1日～2022年3月31日までに登録された症例が対象です。

病理診断カテゴリのうち、Organized deposit を伴う腎症（免疫タクトイド系球体腎症、細線維性系球体腎炎、フィブロネクチン腎症、コラーゲン線維性腎症、その他）

#### 5. 方法

J-RBRに登録されたデータを用います。新たに情報取得の予定はありません。

JRBR登録症例のうち「Organized deposit を伴う腎症」に関連するデータを抽出し、臨床・病理学的病型分類に基づいて疫学的及び腎予後に関連する因子（腎機能、尿蛋白、年齢など）の解析を行います。

宮崎大学医学部附属病院腎臓内科

氏名 落合 彰子

電話：0985-85-0872

FAX：0985-85-6596